

自立活動学習指導案

難聴通級指導教室（たいよう教室）1人（3年男子）

指導者 清藤 大嗣

1 題材名 ことばのひみつ大はっけん！

2 題材の目標

- 類義語や対義語に着目して言葉を集め、その言葉を絵辞典で調べたり、動作化したりすることで、言葉の意味や使い方を理解することができる。
- 学習した言葉を使ったゲームなどを通して、言葉を使うことができたよさや喜びを味わうことができる。
- 教師の口形を見ながら話を聞いたり、分からないときには適切に教師に聞き返したりすることができる。

3 題材について

(1) 題材の価値

対象となる子どもは、2歳から補聴器を装用し、主に口話によりコミュニケーションを図っている。とても明るい性格で、教師や友達に自分から進んで話し掛けるなど他者と関わり合うことができる。しかし、これまで難聴に伴う語彙の不足や発語の少なさにより、他者に思いや考えを分かりやすく伝えることが難しい状況が見られた。そこで、通級指導教室では言葉をつなげて話すことへの意識を高める学習や、上位語や下位語と関連付けて言葉を増やしていく学習を進めてきた。現在では、これまでの学習や生活経験により、使うことができる言葉が少しずつ増えてきている。しかし、在籍学級での学習において、言葉に関する知識が乏しく、言葉に対する興味・関心もあまりないため、国語科の学習を苦手としており、意欲的に取り組むことができない状況も見られる。また、傾聴態度については、相手の口形を見て話を聞くことができるようになってきているが、分からないときに聞き返すタイミングを逃してしまったり、適切に聞き返すことができなかつたりすることもある。

そこで本題材では、今後、在籍学級の国語科の学習で扱う類義語や対義語に着目して言葉を集め、その言葉を絵辞典で調べたり、動作化したりすることで、言葉の意味や使い方を理解することができるようにする。そして、学習した言葉を使ったゲームなどを通して、言葉を使うことができたよさや喜びを味わうことができるようにする。また、題材全体を通して、教師の口形を見ながら聞いたり、分からないときには適切に教師に聞き返したりする態度も身に付けられるようにする。

指導に当たっては、まず、子どもが言葉のカードを分類したり、分類されたものを見てどのように分けられているかを考えたりする活動を行うことで、言葉を仲間分けすることへの見通しをもつことができるようにする。その際、言葉の意味に着目させるとともに、これまでの生活経験を想起させることで、言葉には類義語や対義語があることに気付くことができるようにする。ここでは子どもに対し、類義語を「そっくり言葉」、対義語を「はんたい言葉」と提示することで、類義語や対義語の意味をイメージすることができるようにする。また、「そっくり言葉」や「はんたい言葉」には秘密があることを伝えることで、題材を通して言葉の秘密を探すという意識を高めることができるようにする。次に、「そっくり言葉」や「はんたい言葉」を集め、その言葉を絵辞典で調べたり、動作化したりすることで、言葉の意味に触れることができるようにする。その際、「そっくり言葉」については、似た意味をもっている、同じようには使えないこと、「はんたい言葉」については、一つの言葉に、反対の意味の言葉がいくつもあるといった言葉の秘密にも気付くこともできるようにする。そして、言葉遊びのゲームなどを通して、集めた言葉を使って文を作ることで、言葉に対する理解を更に深めることができるようにする。その際、穴埋め形式にして、そこに入る言葉を考えさせたり、絵カードを提示して、その場面に合う文を考えさせたりすることで、抵抗なく文を作ることができるようにする。さらに、これまで学習した言葉を使ったクイズに挑戦するという課題を設定することで、言葉が使えたことへのよさや喜びを味わうことができるようにする。また、傾聴態度については題材全体を通して指導し、活動の流れが把握できているか確認するために、教師の説明を復唱させたり、意図的に教師が不十分な説明をしたりすることで、内容が分からないときには適切に聞き返すことができるようにする。

このような学習を通して、対象となる子どもは普段の生活においても、「そっくり言葉」や「はんたい言葉」を関連付けることで新たな言葉を増やし、生活の豊かさにつなげることができると考える。また、在籍学級の国語科の学習でも、本題材での学習を生かすことで、自信をもって学習することにつながり、自己肯定感を高めることができると考える。

(2) 子どもの実態

教育的ニーズ		<ul style="list-style-type: none"> 語彙を増やし、在籍学級での学習に自信をもって参加できるようになること。 自分の思いや考えを言葉で表出し、相手に伝えようとする事。
環境の把握 (聴力)		右
		左
		裸耳 80 dB 補聴器装用時 62 dB
		裸耳 80 dB 補聴器装用時 55 dB
人間関係の形成		<ul style="list-style-type: none"> 親しい人に自分から進んで話し掛けることができる。また、初対面の相手にも楽しく話したり遊んだりすることができるようになってきている。
身体の動き		<ul style="list-style-type: none"> 舌を使って発音することが苦手なため、発音の歪みがみられる。特に、サ行の発音が不明瞭になる。
コミュニケーション	言語の受容と表出 (傾聴態度)	<ul style="list-style-type: none"> 口形に注意しながら話をする相手の音声をよく聞き、積極的に相手の話す内容を理解しようとする姿勢が見られるようになってきている。 聞き取れなかった内容や理解できなかった内容を、相手に聞き返さず、そのままにしていることがある。しかし、これまでの学習の成果から、もう一度言ってほしいという反応を少しずつ返すことができるようになってきている。
	言語の形成	<ul style="list-style-type: none"> 学年相応の語彙力が十分身に付いていない。 言葉が増えつつあるが、日常使わない言葉は理解していないものも多く、相手の発言の意図を勘違いすることがある。また、場所や店の名前などの固有名詞を間違えて覚えることがある。
行動観察から (認知の特性)		<ul style="list-style-type: none"> 書く作業に抵抗感があり、聞いたことや自分が考えたことを書く際に面倒くさがつたり、書くことを途中で止めたりすることがある。 分からない言葉を自分から進んで絵辞典などで調べ、実際に体験したことや視覚的なものを手掛かりにして理解することができる。

4 指導に当たって

○ 「自分事の問い」をもたせる教材・教具【しかけ1】

- 題材マップを活用することで活動への見通しをもたせるとともに、学習した言葉を題材マップに提示することで活動への意欲をもち続けることができるようにする。
- 絵辞典や動画を活用し、言葉とイラストや動きを関連付けさせることで、言葉のイメージを膨らませ、言葉の数を増やすことができるようにする。
- 学習する言葉を提示する際に、「言葉博士からのお手紙」という形にすることで、意欲を高め、楽しみながら学習を進めることができるようにする。
- これまでの学習で扱った言葉が出題されるデジタルコンテンツを活用することで、学習を振り返ることができるようにする。

○ 「自分事の問い」につなげる発問【しかけ2】

- 「『はんたい言葉』には、どんな秘密が隠されているかな。」と課題の解決に迫る発問をすることで、言葉の秘密を見付けることへの意識を高めることができるようにする。

○ 「自分事の問い」をふかめる場【しかけ3】

- 言葉遊びゲームの中で、文カードの空欄にどんな言葉が入るのかを考えさせることで、言葉の使い方について理解することができるようにする。
- 子どものよさや頑張りを認める場を設定することで、多くの言葉を理解し、使うことができたという自信につなげるができるようにする。

○ 「自分事の問い」をひろげる連携【しかけ4】

- たいようノート（連絡ノート）などで、家族や在籍校担任に学習した言葉を伝え、教科等の学習に意図的に取り入れてもらうことで、自信をもって学習に取り組むことができるようにする。
- 「言葉が使えるかなチェックシート」を活用し普段の生活の中でその言葉が使えたらチェックをしてもらうことで、言葉の定着を図ることができるようにする。

5 指導計画（総時数6時間）

次	時間	指導のねらいと主な活動内容	「自分事の問い」	家庭や在籍校との連携
一 次	1	<p>「言葉を仲間分けできるかな？」</p> <p>【指導のねらい】 「そっくり言葉」や「はんたい言葉」について知り、言葉を分類することができる。</p> <p>【活動内容】 1 仲間分けされた言葉を見て、どのようにして分けられているか考える。 2 「そっくり言葉」や「はんたい言葉」について知る。 3 言葉遊びのゲームをする。</p>	<p>どのように言葉を分けているだろう。</p> <p>「そっくり言葉」や「はんたい言葉」の秘密を探してみたいな。</p>	<p>目 標</p> <p>【家庭】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習した言葉を使って家族に話をするができる。 ○ 家庭学習において分からない言葉があるときには進んで調べることができる。 <p>【在籍校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習した言葉を使って在籍学級の友達や先生に話することができる。 ○ 在籍校の学習において分からない言葉があるときには進んで調べることができる。
	2	<p>「『そっくり言葉』の秘密を見付けよう」</p> <p>【指導のねらい】 「そっくり言葉」を調べ、それぞれの言葉の意味や使い方を理解することができる。</p> <p>【活動内容】 1 本時で扱う言葉を知る。 2 その言葉に合う「そっくり言葉」を調べる。 3 「そっくり言葉」の秘密を考える。（1時間目のみ） 4 言葉を動作化する。 5 言葉遊びのゲームをする。 ＜「そっくり言葉」の秘密＞ 似た意味をもっている、同じようには使えないこと。</p>	<p>「そっくり言葉」を調べてみたいな。</p> <p>「そっくり言葉」の秘密は何かな。</p> <p>ゲームの中でも「そっくり言葉」が使えるかな。</p>	
二 次	2 (本時1/2)	<p>「『はんたい言葉』の秘密を見付けよう」</p> <p>【指導のねらい】 「はんたい言葉」を調べ、それぞれの言葉の意味や使い方を理解することができる。</p> <p>【活動内容】 1 本時で扱う言葉を知る。 2 その言葉に合う「はんたい言葉」を調べる。 3 「はんたい言葉」の秘密を考える。（1時間目のみ） 4 言葉を動作化する。 5 言葉遊びのゲームをする。 ＜「はんたい言葉」の秘密＞ 一つの言葉に、反対の意味の言葉がいくつもあること。</p>	<p>「はんたい言葉」を調べてみたいな。</p> <p>「はんたい言葉」の秘密は何かな。</p> <p>ゲームの中でも「はんたい言葉」が使えるかな。</p>	<p>連 携</p> <p>【家庭】 第2週以降</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 家庭学習の日記や会話の中で学習した言葉を使うことができたときには称賛する。 <p>【在籍校】 第2週以降</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 通級指導教室で学習したことを伝え、教科等の学習においても学習した言葉を取り入れる。
	1	<p>「集めた言葉を使ってクイズに挑戦！」</p> <p>【指導のねらい】 これまでの学習したこと振り返り、言葉が使えたことへの喜びを味わうことができる。</p> <p>【活動内容】 1 これまでに学習した言葉を振り返る。 2 言葉クイズに挑戦する。 3 題材の振り返りをする。</p>	<p>これまでどんな言葉を学習したかな。</p> <p>在籍学級の「そっくり言葉」と「はんたい言葉」の授業が楽しみな。</p>	

6 本 時 (4 / 6)

(1) 目 標

- 「ぬぐ」、「上がる」の「はんたい言葉」を絵辞典で調べたり、動作化したりすることで、言葉の意味や使い方を理解することができる。
- 言葉合わせゲームを通して、「はんたい言葉」を文の中でも使うことで、言葉が使えたよさや喜びを味わうことができる。

(2) 展 開 ○数字は「自分事の問い」に対するしかけ (①教材・教具 ②発問 ③場 ④連携) ☆はICT活用の留意点 は「自分事の問い」

過程 (分)	主 な 学 習 活 動	子 ども に 応 じ た 具 体 的 な 指 導
つかむ・見通す (5)	<p>1 前時の学習について振り返る。</p> <p>(1) 「はんたい言葉」はどんな言葉だったかを振り返る。</p> <p>(2) 前時まで学習した言葉を振り返る。</p> <p>2 本時のめあてを確認する。</p> <p>(1) 本時のめあてについて考える。</p> <p> </p> <p>(2) めあてを声に出して読む。</p> <p>(3) めあてをワークシートに書き写す。</p> <p>(4) 「今日がんばること」を確認する。</p> <p>3 活動の流れを確認する。</p>	<p>④ 「たいようノート」や「言葉が使えるかなチェックシート」を確認し、在籍学級や家庭で使える言葉が増えていることを称賛することで、本時の活動への意欲を高めることができるようにする。</p> <p>① 題材マップを提示することで、前時までの活動を想起したり、本時の目標を確認したりすることができるようにする。</p> <p>①☆ 前時で学習した「はんたい言葉」が出題されるデジタルコンテンツを活用することで、「はんたい言葉」について振り返ることができるようにする。</p> <p>② めあてを提示する際に、「『はんたい言葉』には、どんな秘密が隠されているかな。」と、課題の解決に迫る発問をすることで、言葉の秘密を見付けることへの意識を高めることができるようにする。</p> <p>○ 「今日がんばること」を子どもに考えさせることで、目標を明確にし、活動に対して意欲をもつことができるようにする。</p>
活動する (35)	<p>4 「はんたい言葉」を探す。</p> <p>(1) 本時で学習する言葉を知る。</p> <p>(2) 「はんたい言葉」を絵辞典で調べる。</p> <p>(3) 「はんたい言葉」の秘密を考える。</p> <p>(4) 言葉を動作化する。</p> <p>5 言葉遊びのゲームをする。(言葉合わせゲーム)</p> <p>(1) ゲームの仕方を聞く。</p> <p>ア 言葉カードをめくり、その言葉の「はんたい言葉」のカードを選ぶ。(例:「ぬぐ」⇔「着る」)</p> <p>イ 選んだ「はんたい言葉」が、どの文カードの空欄に入るかを考える。(例:「服を()。」)</p> <p>(2) ゲームをする。</p> <p> </p>	<p>① 本時で学習する言葉を提示する際に、「言葉博士からのお手紙」という形にすることで、意欲を高め、楽しみながら学習を進めることができるようにする。</p> <p>○ 絵辞典に載っている対義語を確認させることで、「はんたい言葉」は、一つの言葉に反対の意味の言葉がいくつもあるという秘密に気付くことができるようにする。</p> <p>①☆ 絵辞典に載っている絵やICTを活用した動画を見たり、言葉を動作化したりすることで、言葉の意味の理解を深めることができるようにする。</p> <p>①③ 言葉遊びゲームの中で、文カードの空欄にどんな言葉が入るか考えさせることで、言葉の使い方について理解することができるようにする。</p> <p>○ ゲームのルールを子どもに復唱させることで、教師の話聞くことができているか確認することができるようにするとともに、教師の話が分からなかったときには、「もう一度教えてください。」と尋ねることができるようにする。</p> <p>①③ ゲームで獲得した点数に応じて、題材マップにポイントシールを貼ることで、言葉をたくさん使えたことへのよさや喜びを味わうことができるようにする。</p>
振り返る (5)	<p>6 本時の学習について振り返る。</p>	<p>④ 学習で使用した言葉のカードを持ち帰ることで、学習した言葉を家庭でも使うことができるようにする。</p>